

<文献>

- 1) 佐藤徳光ら：「実験動物のケージサイズに関する検討」文部省科学研究費補助金(総合研究A)研究成果報告書, 22-24, 1995
- 2) 倉林 謙：ケージサイズの動向について, 岡山実験動物研究会報, 第13号, 19-22, 1996
- 3) 倉林 謙, 上山和貴, 大光宗義：ウサギケージの大きさによる行動学的研究—特に在来型FRPケージとSCANBURケージとの比較について—, 岡山実験動物研究会報, 第14号, pp. 22-26, 1997
- 4) Institute of Laboratory Animal Resources; Laboratory Animal Housing, 1978
- 5) Institute of laboratory animal resources, National research council. Guide for the care and use of laboratory animals. NIH, Maryland, 1985
- 6) Institute of laboratory Animal Resources, National Research council. Guide for the care and use of laboratory animals, National academy press, Washington D. C., 1996
- 7) Animal Welfare Institute: Comfortable Quarters for Laboratory Animals; Rabbits, 74-79, 1979
- 8) Animal Welfare Act and Laboratory Rabbit Care Guideline in Switzerland, 1994
- 9) Council Directive. On the approximation of laws, regulations and administrative provisions of the member state regarding the protection of animals used for experimental and other scientific purposes, 1986

創立15周年記念 第34回岡山実験動物研究会

平成9年11月28日(金)午後1時からメルパルクOKAYAMAで、岡山県新技術振興財団との共催で開催された。

はじめに会長の佐藤(岡山大・農学部)から開会の挨拶があり、その後、記念講演に移った。

記念講演は「ライフサイエンスの展開と実験動物」と題して岡山大学名誉教授、日本実験動物協会副会長の猪貴義先生が講演された。この司会は佐藤(岡山大・農学部)が担当した。

続いて特別講演に移った。

特別講演(1)は「疾患モデル動物の開発とその応用」と題して国立精神・神経センター・モデル動物開発部部長の菊池建機先生が講演された。この司会

は内藤一郎先生(重井医学研究所)が担当された。休憩を取った後、事務局から会務報告があった。その内容は、①平成9年度の研究会は特別講演会が3月6日に、第33回研究会が7月12日に開催され、また創立15周年記念 第34回研究会は岡山県新技術振興財団との共催で、現在メルパルクOKAYAMAで開催されていること、②第14号の研究会報は10月に発行し、11月に送付したこと、③理事会・常務理事会は各々2回開催したこと、④平成9年度の会計収支中間報告(1月1日～11月27日)、などであった。なお、上記の内容については、研究会に先立って開催された平成9年度第2回の理事会で報告、審議、了承された。

会務報告後、特別講演が引き続き行われた。

特別講演(2)「癌の遺伝子治療」と題して岡山大学・医学部・第一外科教授の田中紀章先生が講演された。この司会は栗本雅司先生(株林原生物化学研究所・藤崎研究所長)が担当された。



記念講演中の猪 貴義先生



特別講演中の菊池建機先生



特別講演中の田中紀章先生

この会には80名の参加者があり、盛会のうちに終えた。休憩時間に記念写真を撮り、特別講演終了後、同会場で講師の先生方を囲んで懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中で創立15周年を祝うとともに、新たな研究会の発展を誓いあって散会した。

記念講演と特別講演の要旨は、本誌の3～16頁に記載されているのでご参照ください。

第35回岡山実験動物研究会

平成10年7月18日(土)午後1時30分から5時まで岡山大学薬学部の亀井千晃教授のお世話で、岡山県新技術振興財団との共催で開催された。

はじめに会長の佐藤(岡山大・農学部)から開会の挨拶があり、その後、一般講演に移った。

一般講演(1)は「白ネズミにおける食餌のエネルギー・食物繊維比と糞便の形状について」と題してノートルダム清心女子大学の中永征太郎教授が講演された。この司会は河田哲典先生(岡山大・教育学部)が担当された。

一般講演(2)は「育種選抜によるハムスター法改善の可能性について」と題して野村稷先生ら(株)林原生物化学研究所・藤崎研究所)が講演された。この司会は国枝(岡山大・農学部)が担当した。

一般講演(3)は「ラット脳波におよぼす抗ヒスタミン薬の影響」と題して齊藤康一氏・亀井千晃教授(岡山大・薬学部)が講演された。この司会は大森齊教授(岡山大・工学部)が担当された。

3題の一般講演の終了後、休憩時間を利用して、岡山大学農学部・薬学部動物実験施設の見学を行った。一般講演(4)に入る前に、事務局から会務報告があった。その内容は、①平成9年度の研究会活動(研究会の開催：特別講演会3月6日、岡山大農学部、第33回研究会7月12日、岡山大農学部、創立15周年記念 第34回研究会11月28日、メルパルクOKAYAMA)、岡山県新技術振興財団との共催、研究会報の発行(10月)、理事会・常務理事会の開催(理事会：7月12日、11月28日、常務理事会：5月29日、10月7日)、②平成9年度の会計収支決算報告(1月1日～12月31日)と監事の中永・河本両先生による会計監査(5月26日)、③平成10年度の活動計画(研究会の開催：第35回研究会7月18日、岡山大薬学部で現在開催中、第36回研究会、11月下旬～12月上旬の金曜日、現在11月27日(金)を第1案としている。研究会報の発行(第15号、8月予定)、役員を選任：研究会会則第7条、第9条に則り今秋行う予定である。なお、研究会に先立って開催された理事会で、常務理事に初鹿了先生(川崎医科大・教授)の後任として辻岡克彦先生(川崎医科大・教授・生理学教室)が推薦

された。初鹿了先生は理事を留任していただくことになった。理事会は2回、常務理事会は3回開催(うち1回は役員を選任のため)する予定である。

会務報告後、一般講演が引き続き行われた。一般講演(4)「マウスXⅧ型コラーゲンの組織内局在」と題して重井医学研究所の内藤一郎先生らが講演された。この司会は新井成之先生(株)林原生物化学研究所・藤崎研究所)が担当された。

一般講演終了後、直ちに特別講演に移った。

特別講演は「薬物依存形成におけるdiazepam binding inhibitor (DBI)の役割」と題して川崎医科大学の大熊誠太郎教授・桂昌司先生が講演された。この司会は亀井千晃教授(岡山大・薬学部)が担当された。この会には62名の参加者があり、盛会のうちに終えた。特別講演終了後、亀井千晃教授のお計らいで薬学部の2階会議室で懇親会が行われた。矢部芳郎先生(名誉会員)の乾杯のご発声後、飲み物や料理をいただきながら、和気藹々と会員相互の親睦を深めた。

一般講演と特別講演の要旨は、以下に記載いたしますので、ご参照ください。

一般講演(1)

白ネズミの食餌におけるエネルギー・食物繊維比と糞便の形状について

中永征太郎(ノートルダム清心女子大)

食餌条件をエネルギー(E)・食物繊維(Df)比にもとめ、食餌のエネルギー利用率を出来る限り低下させないで、しかも排便の効果が期待できるような食餌条件を白ネズミを用いて検索した。

まず、白ネズミの飼料組成はAIN-93標準食とした。供試飼料は、食物繊維含量を0、1、3、5、10%添加し、corn starchにより全体を100%とした。この場合のDf源は、日本人の食物摂取状況からもとめたFiber mixture(セルロース31%、ヘミセルロース34%、アルギン酸5%、ペクチン7%、乳果オリゴ糖16%、キトサン7%)を調製した。また、各飼料のE量はAtwater係数を用いて算出し、E/Df比をもとめた。白ネズミは、4週令のSD系雄を用いて、1群7匹として、5種類のDf含量の異なる飼料を3週間与え、糞便は、個体別に7週令後半の4日間採取した。この際の排便指標としては、1)糞便の形状(風乾状態の糞便の長径と短径をノギスにより測定)、2)風乾糞便重量、3)胃腸通過時間(7時間絶食後赤色カーミンを配合した飼料を一斉に摂食させ、赤色の糞便を排泄するまでの時間)の3項目とした。また、飼料の利用率は、風乾物利用率としてあらわした。

以上の条件下において、糞便の短径とその重量ならびに利用率は、Df0%群に比して1%以上の群が統計